

【ポスター発表】

## 福祉系学生に対する非合法中絶の意識調査

ーテキストマイニングによる分析ー

○ 徳島文理大学 宮原和沙 (5100)

キーワード：福祉, 人間教育, 国際社会

## 1. 研究目的

本研究は、大学生を対象とした非合法中絶に関する意識調査の継続研究である<sup>1)</sup>。

今回は福祉系学生を対象に調査研究を実施し、その結果を基に報告する。

第二次世界大戦前後の大混乱期に海外において外国兵や現地住民によるレイプで性病に罹患、望まぬ妊娠をさせられた邦人女性が存在したこと、その女性に非合法中絶が実施されたこと等をこれまで義務教育の中では触れられることはなかったように思われる。

しかしながら、人間教育の過程において、非合法中絶の歴史的事実をきちんと語り継ぐことは、国際社会を生きる児童らにとって大きな意味を有するであろう。

このようなことから、研究全体を通して、分野・領域が異なる学生に対して、非合法中絶に関する意識調査を実施し、その結果を基に、分野・領域による考え方の違いがあるのか否か等を明らかにし、今後の人間教育の一助にすることを最終目的としている。

## 2. 研究の視点および方法

事前情報により、調査結果が左右されないようにするために、研究対象者には事前に非合法中絶に関する説明等はせず、自由意志で研究協力（参加）を依頼した。

本研究調査は福祉系学生 64 名を対象に、2016 年に集合方式で実施した。

分析方法は、樋口の KH Coder による計量テキスト分析とした。

## 3. 倫理的配慮

研究対象者には、研究協力（参加）は自由意志であること、研究目的・方法・内容・研究公開の公表等について説明をした上で、同意を得た。

また、日本社会福祉学会研究倫理指針「第 2 指針内容」の G 学会発表に基づき、研究を実施した。

## 4. 研究結果

ここでは、研究協力（参加）に同意が得られた福祉系学生 64 名の結果について報告する。福祉系学生が自由記述した感想から「思う」を除き、出現回数の多い語を抽出した結果、「女性」が 122 回と一番多く使われていた。二番目に多かったのが「中絶」で 108 回であり、三番目が「妊娠」で 79 回であった。続いて、「人」が 62 回、「知る」が 61 回、

「戦争」が 49 回であった。

また、中心性による共起ネットワークの分析を行った(図1)。中心性としたのは、語と語のつながりよりも、福祉系学生の自由記述の中心となる語を知ることにより重きを置いたためである。結果、記述の中心には「人」や「暴行」という語があり、「中絶」や「考える」という語が続くことが分かった。

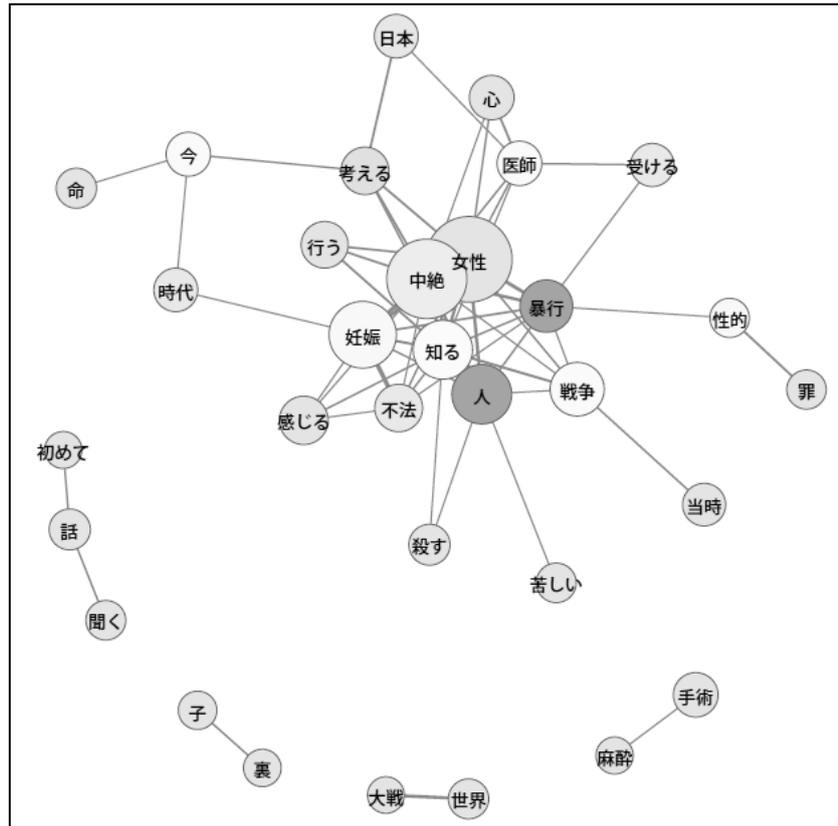


図1 共起ネットワーク

## 5. 考察

福祉系学生たちは、非合法中絶に関するDVDを視聴し、真剣に人間の命と向き合い、各自の感想を書いていた。その自由記述からは、人、暴行、中絶等が文章の中心であることが読み取れた。すなわち、福祉系学生は、これまでの講義受講の経験から、人を中心に据えながらこの問題を捉え、その内容を理解しようとしていることが推察される。

今後の課題としては、引き続き非合法中絶に関する意識調査を継続し、その結果を基に、分野・領域による考え方の違いがあるのか否か等を明らかにし、今後の人間教育に活かしたいと考える。更には、国際社会を生き抜くことができる広い視野をもち、相手の立場に立ち、感情に流されることなく理論的に物事を考え、行動できる人材の育成に微力ながら貢献したいと考えている。

## 注

- 1) 「保育系学生における非合法中絶に関する意識調査ー計量テキスト分析を用いてー」, 第28回日本福祉文化学会全国大会東京大会(立教大学), 2018年2月18日.

## 文献

- ・樋口耕一『社会調査のための計量テキスト分析 内容分析の継承と発展を目指して』, ナカニシヤ出版, 2014年.